

令和5年第4回加西市教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|--------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和5年4月24日(月) | 14時00分 |
| 2 | 閉会日時 | 同日 | 16時25分 |
| 3 | 開催場所 | 市役所 4F入札室大 | |
| 4 | 出席者 | 教 育 長 | 民 輪 惠 |
| | | 委 員 | 沼 澤 郁 美 |
| | | 委 員 | 楠 田 初 美 |
| | | 委 員 | 中 川 和 之 |
| | | 委 員 | 深 田 英 世 |

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名
- | | |
|-------------------|---------|
| 教育部長 | 千 石 剛 |
| 市参事(新中学校建設担当)兼 | |
| 教育総務課長兼給食係長 | 伊 藤 勝 |
| 学校教育課長 | 小 坂 卓 司 |
| こども未来課長 | 阿 木 博 信 |
| 教育委員会課長(未来型児童館担当) | |
| | 井 上 英 文 |
| 生涯学習課長兼市史文化財係長 | 北 島 悦 乃 |
| 総合教育センター所長 | 工 藤 憲 人 |
| 図書館長 | 伊 藤 陽 子 |
| 教育総務課長補佐兼総務係長 | 松 田 ちあき |

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移ります。

6 付議事項

- | | |
|--------|---------------------------|
| 議案第12号 | 加西市立総合教育センター運営委員の委嘱について |
| 議案第13号 | 加西市青少年補導委員の委嘱について |
| 議案第14号 | 加西市子どもいじめ問題対策審議会委員の委嘱について |
| 議案第15号 | 加西市学校運営協議会委員の任命について |
| 議案第16号 | 加西市立図書館協議会委員の委嘱について |

議案第 17 号 加西市教職員の働き方改革推進会議設置要綱の制定について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 12 号 加西市立総合教育センター運営委員の委嘱について

(総合教育センター所長の説明) 加西市立総合教育センター条例施行規則第 3 条の規定により、加西市立総合教育センター運営委員に次の者を委嘱いたします。委嘱期間は令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までで、市小・中学校長会長、市青少年補導委員連絡協議会会長、市連合 PTA 会長、市連合婦人会会長、市地域福祉課長、市学校教育課長に委嘱するものです。

教育委員からの意見と総合教育センター所長の回答

- ・ 諸団体の方は異動があり個々に代わられるのですが、連合婦人会はずっと同じ方なので、ここを代えていったらいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

(回答) 委員の選定に関しては、特にこれとってセンターに詳しい規定があるというわけではありません。主にセンター業務に関わる各組織団体の長に参加いただくよういつもお願いしています。本年度は 7 名中約半数近い 3 名が代わりました。継続的に検討していることもありこれまでの経緯を知る委員が必要であるため、センターとしてはこの程度の入替えが適切だと考え、今回そうしたところです。

(教育長の意見) 別にその人がいけないというわけではなく、ずっと同じ人を選び過ぎていないのかということだと思います。連合婦人会は、同じ会長がずっとされるというところなのかもしれませんが、そういう場合は、副会長に出てもらうなどいろいろ方法はあると思います。どういたしますか。少し検討いたしますか。現場では随分いろいろとご協力いただいている方だとは思いますが。

(回答) 分かりました。我々としては今のような考え方でいこうとしていましたが、今のご意見をいただきましたので、次年度から検討させていただきます。

- ・ 私は今年 4 月からコミュニティスクールが始まっているので、このメンバーの中に代表区長などを入れたらどうかと思っています。または別の団体をプラスアルファ

で入れるとか。というのも、コミュニティスクールを充実させていかなければならぬので、区長さんには絶対に入っていた方がいいと思います。もしそれが難しいのなら、ふるさと創造会議の代表に入っていたら、より活発な運営になってくるのではないかと思います。そういうのはできないのでしょうか。

(回答) 強い理由はないです。今までセンター業務に関わる各団体に入っていたいてきただけなので、今教育委員が言われたことは、可能だと思います。

- ・今の話だと今年から変えるというのは無理だということなので、来年度にできたらメンバー案を定例教育委員会で事前に提案していただいて、オッケーが出てから依頼をかけていただけたらと思います。

(教育長の意見) 確かにコミュニティスクールのこともあり、地域との連携がより強く求められています。もしどうしてもということであれば、別に委員の人数が決まっているわけではないので、今年度でも代表区長さんへお願いすることは可能ですよね。急に何でと思われるかもしれないけど、代表区長さんもお代わりになりました。この間、代表区長会がありました。区長さんは去年と違う方になられて、区長会もとても活発に動いているなという感じを今年は受けました。

- ・先ほど言われた代表区長は大変忙しくされているので、代表区長が例えば副代表にお願いするとか。とりあえず代表区長に対してお願いして代表区長会の中からというぐらいだと思います。

(教育長の回答) 副代表区長は二人ぐらいいらっしやったと思うので、代表区長にしておいて代表区長が出られないとき、副区長に出てもらうとかはできるのではないのでしょうか。

- ・別にこちらで選任はせず、代表区長さんがいらっしやるので、もし可能であれば代表区長に代表区長会から二、三人選任していただいて、そのほうが意見はまとまっていいかもしれないですね。

(回答) 即答は今できないのですが、確認して検討をしていきます。

議案第 13 号 加西市青少年補導委員の委嘱について

(総合教育センター所長の説明) 加西市立総合教育センター条例施行規則第 4 条の規定により、以下の者に加西市青少年補導委員を委嘱いたします。委嘱期間は令和 5 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの 2 年間です。各町からの推薦 137 名、北条、播磨農業高等学校の各生徒指導担当 2 名、女性協力員 10 名の合計 149 名に委嘱するも

のです。

教育委員からの意見と総合教育センター所長の回答

- ・ 青少年補導委員はどのような仕事をされるのでしょうか。

(回答) 加西市青少年の補導、育成に関する活動をしているところです。具体的には各町の補導活動、祭りや繁華街等における特別活動、万引き防止などのキャンペーン活動、北播他市町や場合によっては県との連携もしながら、地域における青少年非行防止活動を中心に行っています。

- ・ 夏休みの夜には、外に補導監視に行ったことがあるのですが、そういうことをされるのですか。

(回答) 基本は各町で推薦された委員が町を中心に回っています。それから、11月頃に行う万引き防止キャンペーンでは、各店舗をみんなで分担してチラシ配布をするといった活動をしています。また、女性協力員は年に数回、大型量販店内をパトロールします。

- ・ 149名というたくさんの人数のうちほとんどが男性なのですが、もう少し女性を多く入れるということはどうなのですか。女性は夜出るのが大変だからですか。

(回答) そういうような意見があります。我々としては今の市の取組をお伝えしているのですが、例えば少人数で車に乗り合わせてパトロールするとか、夜に補導活動をするということで、どうしても男性の推薦が多くなっているのが現状です。

(教育長の意見) でも、何人かで乗り合わせて行くのだったら一人ではないので、女性がいてもいいと思いますけどね。

(回答) ただ、地区によりいろいろな回り方があって、さらにそれを班分けして本当に2、3人になることもあるようなので。

(教育長の意見) でも、もう少し女性の目が入れば違ってくるのではないかという感じはありますよね。各町一人で、これだけの人数を出そうと思うと大変なことなので、多分区長さんは大変な思いをしながら決めてくださっているのでしょうか。

- ・ 男性のほうが補導するときの力の関係や言葉の力というのはあるのかもしれませんが、補導されるお子さんの立場になってみると、例えば女の子なら女性の補導員のほうが言いやすい、話しやすいということもあるかもしれません。それで、今、教育委員が言われたようなもう少し女性の配分をとというのも大事だと思います。また、

各団体のほうで女性補導員が 10 名ほどいらっしゃいますが、この方たちは大型量販店など特定のところだけを回られているということなので、できれば全体的にバランスよく女性に入っていたらいいかなと思います。

(教育長の意見) わざわざ女性協力員と書いてあること自体が、もともとのメンバーに女性があまりいないという意味でもありますよね。確かに今の時代としてはジェンダーの観点からも考えないといけないかなというところでもあります。では、来年度はできれば女性をもう少し出していただきたいということで、これは誰が誰に頼むのですか。

(回答) 各地区の理事が定期的に集まり、定期総会でいろいろな報告や協議を行っていますので、その場で来年度に向けて早めにそうした意見を伝えていくことは可能だと思います。委員のおっしゃることはよく分かりますし、我々も伝えてきている部分ではあるのです。ただ、町から推薦される人をどうコントロールするかというのは非常に難しく、それから全部ばらばらの地区の中で全体として男女の割合を調整し、どこの地区からどう女性を推薦してもらうかは、現実的に難しいところがあります。今委員から言われた意見は我々もとてもよく分かりますので引き続きお伝えして行って、今後その辺りを考えていきたいと思っています。

- ・ 3月の定例教育委員会で社会教育委員の数を減らしたらどうかという話がありました。私はどちらかという方向で、今のほうがいいのではという意見を出しました。ただ、青少年健全育成委員というのがあります。あれはどこの管轄になりますか。

(回答) 一応、健全育成の会は総合教育センターが管轄していますが、ほとんど各地区で自走されているような状態です。

- ・ 私がいつも思っているのは、青少年健全育成委員と補導委員を一つにしたらどうかということです。村から2人を選ばないといけませんし、どちらも青少年健全育成という意味合いなのでそこを兼ねてもらって、一つにできないかなと少し思っているところです。
- ・ 青少年健全育成委員は私も2年ぐらいさせていただきましたが、そこでも交通パトロールをします。一応、私のところは善防中、賀茂小、下里小の三つの団体に話し合っ、夏休みや冬休みにローテーションでパトロールするのですが、そう思えば結局、パトロールする人も多いですね。青少年健全育成、青少年補導、子ども会も、その辺は組織的に全部重なってしまうので、位置づけがよく分からないというのが、私がやっていたときの一番の印象でした。子ども会があつてパトロー

ルしているのに、今度青少年育成でもパトロールするとか、もちろんパトロールするのはいいことなのですが。

(教育長の回答) 青少年補導委員会と健全育成とでは、機能的に何が違うのかというのを今答えられますか。

(回答) 非常に難しいです。健全育成は、各地区や各町で集いなどいろいろな活動に子どもを参加させて育てることを含めた健全育成という形で、どちらかというとはパトロールはせずに、本当に教育活動みたいなものなど、地区活動を主に担っているという地区もあります。青少年補導の方は、どちらかというとは非行防止というほうにかじを取ってパトロールなどの活動をされている状況です。その辺は地区によって活動がばらばらですが、イメージとしてはそういう違いがあると思います。ただ、前定例会で出た話と同じで、町によって活動回数、活動内容もばらばらで、それぞれの町の歴史があり、我々がコントロールや調整、またこうしなさいとなかなか言えない部分があるのが現状だと思います。

(教育長の意見) 今実際、本当に機能しているのですか。一応、総合教育センターとして事務的な管理をしているものの、もう少しこうしてくださいとかいう意見は言えないのですか。

(回答) それは町によって様々です。なくてはならない町もあれば、活動があまり多くない町もあるのが現実だと思います。役割分担など町によって担っていることが違うので、どこがされるのかばらばらの状況があります。

- ・例えば私の山下西町ではここには書いていませんが、青少年補導委員と副委員の2名がいます。青少年補導委員の活動としては普通に夜間のパトロールをしたり、外に止めている車には施錠をしているかどうか確かめて、していないと紙を書いて入れたりして、多分役員がそこまでできないので町のパトロールプラス青少年補導の一環でしているのだと思います。もし私の町のように各市町に2名いるのであれば、男性と女性1名ずつ選んでもらうよう区長に言えばできそうな気もしますが、その辺は町々でやり方は分かりませんよね。

(教育長の回答) 強制することはできませんが、そういう視点を持ってきちんとやってもらおうのと、そうでないのとでは全然違うと思うのです。今話を心に留めていただいて、女性をもう少し入れていってほしいということは、今後努力していってください。

議案第14号 加西市子どもいじめ問題対策審議会委員の委嘱について

(総合教育センター所長の説明) 加西市子どものいじめ防止等に関する条例第13条

規定により、加西市子どもいじめ問題対策審議会委員を委嘱いたします。審議会委員の委嘱期間は令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間で、学識経験者、弁護士、医師、臨床心理士に委嘱するものです。

教育委員の意見と教育総合センター所長の回答

- ・ いじめ問題対策審議会というのは、年に何回ぐらい開かれていますか。また、どうい内容に対してどのように話をされているのですか。

(回答) 定例の会議自体は、年度初めと年度終わり頃の年2回です。内容は加西市のいじめ防止の法令を見直すこと、またいじめに対するふだんの取組を私たちから報告させていただき、その取組に関するご意見やご指導をいただいています。何か大きな問題がなければ、そのことが話し合われますが、年度末には私たちから気になる事案の幾つかを挙げ、こういう対応をしているという報告とともに、もう一度振り返って指導や助言をいただいています。もし年内に重大事態等のいじめに関する大きな問題が起こったときに、この委員さんを中心に調査委員会等が立ち上げられるような仕組みになっています。

- ・ この審議会によっていじめ問題に効果は出ているのですか。

(回答) 比較的大きな問題になっていないことですが、学校のほうから保護者に電話連絡をしていたことが近年指摘されました。どんなに小さなことでも、いじめということになったからにはきちんと対面で報告するようにと指導助言を頂きました。学校現場としてはとてもささいなことだったので電話連絡をするのが続いており、それが浸透するまでには時間がかかったのですが、言い続けることでここ数年学校としても、小さなことであってもいじめに関しては対面報告をするということが浸透してできるようになりました。

議案第15号 加西市学校運営協議会委員の任命について

(総合教育センター所長の説明) 加西市学校運営協議会規則第8条の規定により、加西市学校運営協議会委員を任命いたします。期間は令和5年4月1日から令和6年3月31日までで本年度から市内小・中・特別支援学校で学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールを導入するに当たり、各学校長からの推薦を受けた地域住民、保護者、学校長や教職員、地域で活動する団体、学識経験者等に学校運営協議会委員を任命するものです。

教育委員からの意見と総合教育センター所長の回答

(教育長の意見) この学校運営協議会委員と従来の学校評議員とでは、メンバーはどれぐらい変わったのでしょうか。学校評議員はどこが管理していたのですか。

(回答) 従来の学校評議員は我々の管轄ではなかったもので、今までのメンバーは少し分かりません。これまでは学校教育課が学校評議員を管理していました。

(教育長の意見) 管理が総合教育センターに変わったということは、組織が基本的に変わったということですね。

・これを見ていると、コミュニティスクールになったのでふるさと創造会議が入っていますね。たしか前にはふるさと創造会議は入ってなかったですから。

(回答) 小学校はふるさと創造会議のほうから、中学校では公民館から関係者を1名入れるようにお願いしています。

(教育長の意見) これについては代表区長会においても区長さんたちが気にしてくださっていて、コミュニティスクールと以前とでは何が違うのか、自分たちは何をしたらいいのかというような意見は2回ぐらい出されており、ある意味で大きな節目だと思います。ただ、大きく変革しているというより、基本的には地域で活動されている学校教育に理解ある方たちを、校長先生の推薦で挙げてもらって、決めているということです。だから、これは校長先生と対立する組織ではないのです。この間も、「それなら、学校運営に関してこうしようと決めたのに、校長と意見が全然違って、そうしてくれないというような場合は、そのことに対して何か言えるものですか」というような質問も出ていました。

今そこまでの権限を学校運営協議会委員にお任せするという認識はないと思いますが、前よりも「一緒に学校をつくっていこう」という形が強くなっているのではないかと思います。ただ、それが受けてくださった委員さんにどこまで通じているのかというのは、ここ一、二年試行錯誤があるのかなと思います。まだ制度が開始されてから日にちがないので、皆さん「どうしたらいいか分からない」というところもあるのではないかと感じます。

・校長先生がどのような方針を出していくかですね。それによってはその方針に沿って動いていくのが見えるかもしれないですし、ただそうした方針はまだ出ていない状況ですね。

(回答) 学校の運営方針自体が大きくがらっと変わるというより、学校運営協議会の意識が大きく変わる必要があると思うのです。今まではどちらかといえば、学校評議員では評価ではないですけど、第三者的な関わりだったものが、今後、学校運営

協議会では当事者という扱いになります。いろいろな問題点や決め事について合議制というか協議する場ができましたので、言い方は悪いかもしれませんが、その辺りは学校長が学校運営協議会の委員さんたちと一緒に巻き込んで、どれぐらい活動できるかということになってきます。委員のお名前を見るといろいろなアイデアを持っている方がたくさん入っておられるので、多分いろいろな提案が出てくるのではないかと期待しています。

(教育長の意見) だから、STEAMなんかでも地域人材がいらっしゃれば、子どもたちもいろいろなことを教わったりできますし、もっと地域と連携してより活発になっていけばいいと思います。

- ・まずはいろいろな小さな行事でも子どもを交えてやっていけば、おのずと見えてくるものかなと見ているのですが。

(教育長の意見) それと同時に、今までは何か事が起こると、学校と家庭がある種対立するような関係もあったと思うのですが、私が考えるに、もう少し地域の保護者の方々に、勉強会のようなこともできていったらいいなと思っています。

- ・学校の規模にもよりますが、多いところで10人、少ないところで5人の委員さんですから、5人のうち校長、教頭を除くと地域の方は3人になり少ないかなという思いがあります。ただ、去年の研修会では、最初スタートは少なくても、次々と誘って入る方を増やしていくという方法がいいのではないかという話も出ていましたので、将来的には増やしていったらいいという気持ちでいます。

(教育長の意見) 確かに善防中は5人ですね。

- ・この館長さんはふるさと創造会議に入っている方なので、多分生涯学習と両方を巻き込んでやっていかれるという考えなのではないかと思います。
- ・男性の方だけではなく、女性の方も委員にかなり入られていますので、その点はいいかなと思います。会長さんについては、次年度変わる代表区長さんのところが一つだけありますが、それ以外ほとんど次年度も会長としてやっていただけたところが多いので、いい人選をされていると思って見させていただきました。一番気になったのは5人のところで、もう少し多くてもいいかなと思いました。

(回答) その辺りではそれぞれの校長先生と幾らか話をさせていただきました。教育委員さんもおっしゃったように、研修会ではできるだけ先に埋めてしまわないよう

にと言われたので、私個人としてはどちらかといえば少ないほうが変化しやすいのかなと思っています。そして、初めてその地区で教師をされる先生方からすれば、誰がいらっしゃるのか本当に分からないからすぐに人が選べないが、活動をしながから探していきたいという意見もあり、昨年度の校長先生が3月に軸になる方を推薦してくださったことが大変助かっていると言われる校長先生もたくさんおられます。

それから、学校運営協議会の性質上、ここに名前が入っていない方でも呼べるというシステムなので、全ての会に参加するかどうかは分かりませんが、名前こそ入ってなくてもいろいろな地域の方が入れ替わり立ち替わり入るような組織を考えているようで、話を聞くとそれぞれビジョンを持っておられるようです。やってみないと分からない部分はありますが、校長先生方としては何らかの考えを持ってつくっておられるというのは感じております。

- ・この書面では分からない話をしていただいて、よかったですと思います。
(教育長の回答) そうですね、このリストでは人数やどういうことをしている人がぐらいいか分からなかったのです。校長先生も前のままではなく新しくなるという意識をかなりもって、これをつくられているのだと思います。
- ・案外、これはやってみなければ分からないですね。
(教育長の回答) そうですね。新しいシステムなので、この一、二年は何をどこまでしたらいいのかという戸惑いもあるでしょうから、お互いに遠慮したり、逆に言い過ぎてしまったりということはあると思います。でも、せっかくなので地域と学校がもっと近くなるように、よろしくをお願いします。

議案第16号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

(図書館長の説明) 加西市立図書館設置条例第5条の規定により、次の者に図書館協議会委員を委嘱したいので委員会の議決を求めます。これはこのたび、小西孝子園長が学校教育関係者であるこども園図書担当になられたことによるものです。任期は前任者の残任期間である令和5年4月1日から令和5年8月31日までです。

教育委員からの意見と図書館長の回答

- ・図書館協議会というのは、年に二、三回開かれているのですか。
(回答) 大体2回開くのが定例になっています。
- ・どういう話や議題が出されているのか教えていただけますか。

(回答) 定例的なものとして、年度前半に開かれる会では図書館の事業の計画や内容を、年度終わりに開かれる会では年度の実績報告を定期的に報告させていただいています。また、このたび規則を変更しましたので、定例教育委員会では諮っていませんが、図書館協議会にはその関連の方針等を諮らせていただきました。さらに、協議会委員から図書館についての市民の声を踏まえたご意見等をいただき、事務局として良いご意見は採用させていただき、どうしても無理なものはできない理由をお話しさせていただくなどして協議をしています。

- ・具体的に委員からは、どういう内容について、意見が出されているのでしょうか。

(回答) 今年は特にありませんでしたが、過去には図書館のキッズコーナーについて、漠然と小さな子ども向けの本を置くのではなく、保護者がもう少し本を選びやすいように0歳向けや1歳向けというふうに細かく分けて本を置いてほしいというご意見をいただきましたので、それに対応して分かりやすく本の配置をさせていただいたという事例があります。

(教育長の意見) 私もこの会議には前から出させていただいて大事だと思っています。会議の議事録はオープンにされていないのですか。

(回答) 議事録はホームページのに掲載させていただいています。

- ・これからスマート図書館を始めて、いろいろな意見が出されると思います。もし何かあればまた教えていただければと思います。

(教育長の意見) 図書館こそ市の知の牙城だと思っていますので、私も他用がないときには必ず出席させていただいており、そこで皆さんが読書を含め加西市の文化などについて大変活発かつ真面目に意見を出されているように思います。ただ逆に、スマート図書館とはいったい何ぞやということをもう少し分かるようにしていく必要がありますので、そういうことも今後、会議できちんと話し合わないといけないだろうと思っています。

議案第17号 加西市教職員の働き方改革推進会議設置要綱の制定について

(学校教育課長の説明) 加西市教職員の働き方改革推進会議設置要綱を別紙のとおり制定したいので、委員会の議決を求めます。今回の教育委員会訓令制定の理由ですが、この推進会議の設置要綱は毎年度4月の校長会で提案してきましたが、今後は年度ごとではなく恒常的に推進会議を設置しようとするためのものです。

この要綱第1条にあるとおり、教職員が時間的、精神的ゆとりを持って児童生徒と

向き合うことで、教育活動のさらなる充実を図ることができるよう、加西市教職員の勤務時間に関する規則及び教職員の勤務時間適正化推進プランに基づき既に様々な取組が進められているところです。そこでこの推進会議については、今後もさらに実効ある取組が推進できるようにするため、優れた取組や工夫、改善等の情報共有を図るとともに具体的方策を検討していくこと、そして広報誌等への周知啓発記事の掲載について進めることで、学校業務改善のさらなる強化を図ることを目的としています。会議の開催は第4条にあるように年3回とし、定期的に行われる校長会の機会を利用して、第2条の記載の内容について協議を行うこととしています。

教育委員からの意見と学校教育課長の回答

- ・働き方改革推進委員会が立ち上がったということですが、例えば今1人の先生が20時間残業をされていて大体10人いたとすると、学校では200時間の時間外労働になるわけですが、協議会によって残業の原因を分析した上で、最終的には例えば半分にしようというような目標やビジョンを持ってされるのでしょうか。というのは、現在学校訪問で行くといつも記録簿が置いてありますけれど、少し言い方は悪いのですが、それを見ていて本当に役に立つのかというふうに感じます。現状、先生方がどんな原因で残業しているのかというエビデンスは今あるのですか。

(回答) 数年前から働き方改革推進協議会らしきものをつくって取り組んでいるところです。例えば今、国や県は、超過勤務は月45時間以内、1年間360時間というガイドラインを示しています。それについて毎年調査をしており、去年の集計結果によれば、超過勤務時間を月45時間以内に収めている者は全体の60から65%ぐらいです。この数値については以前にはもっと少なく、ここ数年でかなり上がってきたと思っています。それで、先生方の意識は大分高くなってきていて、学校全体としても業務改善がほぼ進んでいるのは間違いないと思っています。そうは言いながらも、まだ3割以上の者が月45時間を超える超過勤務を続けているというのは事実ですので、この辺りを減らして超過勤務を月45時間以内に収める者の割合をもっと増やしていくことが当面の目標になります。

- ・たしか一、二年前に、教える仕事以外の校務分掌の仕事をもっと見直したらどうなのかという質問を一度させていただきました。そのときには校務分掌はシステムがあるので、残業時間はだんだん減っているというようなことを言われました。しかし、実際に加西市でのエビデンス、それに対して原因は何なのというのを究明しないことには、この協議会を開いたとしても何も変わらないような気がします。それとプラスして、今こうなのでもっとこうしたほうが良いという方策、例えば大きな話では小学校の担任制を教科担任制にするなど、そうしたことを踏まえて各先

生方の意識改革をするような協議会を開かないことには厳しいのではないかと私は思います。難しいとは思いますが、取りあえず事務局のほうからデータを基に校長先生と話し合いながらやっていったほうが、書かれているような教職員が時間的、精神的ゆとりを持ち向き合えることにつながるのではないかと思います。

私は教職員の仕事とは全く違うのですが、四、五年前には年間 300 時間ぐらい残業していました。そのときある上司が入ってこられて、強制的ではあったのですが、いろいろされて一遍に残業がなくなるという事例がありました。そのときには何が原因で残業時間が多くなっているのかを調べるため、1人1人が朝8時に仕事をスタートしてから残業するまで何をやってたのかというのを全部書かされました。それからいろいろとみんなで分析しながら残業をなくしていきました。教職員と別の職種なので参考になるかどうかは分かりませんが。

私が教育委員に入ったときから教職員の働き方改革は言われており、こんなことを素人の私が言うてはいけないのかもしれないかもしれませんが、本当に校務分掌というのは要るのかなと思います。ある小学校では少ない先生方で、一方、ある中学校では大勢の先生方でと、仕事量も全然違います。それを考えると、1人1人の先生が何をしているのかを把握していかないと厳しいのではないかと思います。まずそこからエビデンスを取って、これはこうする、これはなくす、これは時間のある日にするといった方法もできるのではないかと思います。

せっかくある記録簿を活用しながら、一遍には絶対無理ですので一つ一つ、たとえ 10 分でもいいので減らしていけば、だんだんと教職員の意識も変わってくるのではないかと思います。まず、エビデンスを探ってみたらどうかと私はずっと思ってきました。一度に全員の先生の分をやるのは無理なので、一人ずつでもいいから残業の多い先生に絞ってやっていけばおのずと残業時間は減っていくのではないかと思います。大変だと思いますが、一度データを取ってみただけならなと思います。

(教育長の回答) 働き方改革推進会議というのを設置しても、上っ面で何かやっているみたいになってしまうと、かえって会議をすること自体が負担になってしまうということもあります。そういうことはもちろん世の中に多々あることなので、今教育委員が言われたように、一番本質的な問題の一つ一つにまで迫らないと改善はできないのではないかと思います。私も口では「もっと公文書を減らしなさい」とか、「こんなことまでしないといけないのか」とよく言うのですが、減らせないのには理由もあって、「こういうことがあるのでこれは減らせないのです」と言われるとほとんど減らせません。また、教職員本人たちは減らしたつもりでいても、脇から見ていると「こんな減らし方では超過勤務時間が変わるわけない」というようなことも中にはあります。

だから、今学校の先生は大変だという悪評ばかりではなく、改善をしていかなければ

ればなりせん。それで、去年は随分と思いついて学校教育課の研究授業をやめました。でも、あれは本当はやめたらいけないことだと思うのです。でも、研究授業をやることによる負担感をどう減らすということで、何かを間引かないとできないので、その代わりに新たな勉強会を多分つくっていると思います。

今、話を聞きながら私が思ったのは、各学校に STEAM Labo. が実現できたということです。先生方に言わせると「そのほうが大変や」ということもあると思います。新しいことを始めるときには何でも大変なものです。でも、その先どうなるかという見通し、ビジョンを持てば、立ち上げに対する抵抗感はなくなることもあります。そして、私は Labo. ができたので、今年から本格的に学園構想をやっていきたいと思っており、現実に学園構想を実現するための専門員として元校長先生に来ていただいています。学園構想が実現すれば、これは本当に単に絵に描いた餅ではなくなります。

小学校で教科担任制のようなことはこれから進まざるを得なくなります。例えば、今学期の国語は4校で中川先生と楠田先生がされるとか、そうするとほかの人たちはアシストに回ればよくなります。そういうようなことが現実に起きてこないといけないと思っています。それは授業をしないということではなく、先生の負担感が減ってくるということです。また、この単元は泉小と西在田小の先生がそれぞれ分擔するとか、2か月間ワンクール授業は中川先生がするとか、その次の3、4クールは楠田先生がするとか、または外部講師に授業してもらうこともできます。もちろん最初は慣れないし打合せが必要で大変だと思いますが、きちんと割り当てて本当にできるようになれば、先生方の授業に対する負担というのがかなり減るのではないかと思っています。また STEAM Labo. を導入したからにはそうしないと意味がないのです。

新しい校長先生と面談をしていると、「僕は STEAM Labo. を活用して外国と結んでやりたいのです」と言われる先生もおられ、これはすばらしいなと希望を持ちました。そういうことを含めた働き方改革推進会議でないと意味がないというふうに思っています。むしろ会議を開くこと自体が負担になったら意味はないし、そうなりかねないので、学校教育課長には後々ハンドリングをよろしくお願いします。

- ・会議だけではなく、先生方というのは何とか子どもたちに分からせたいという思いがあり、特に新任や若い先生方は教材研究にどうしても時間がかかるものなので、もう取り組んでいる学校もあるのですが、少しでも校務分掌を少なくして負担を減らすことで、若い先生が授業研究に集中できるようにするという工夫もあります。また、中学校の部活動については、どうしても夏場は下校時間と練習時間が長くなり、おのずと残業時間が増えるということがあります。それを何とか地域移行していくという方向で今進んでいます、それにも大きい課題が残されています。

もう先生はブラック企業のイメージがあって教員志望の数が減ってきてしまっているという状況なので、本当に全国規模で考えていかなければなりません。それで、小さなところで考えていくと同時に、県の講習会などいろいろなところで問題にされていますが、大きく国全体としても両方で考えていくべき問題だと思います。(教育長の回答) なかなか現場にとっては大変なことだと思うのですが、中学校出身の新しい学校教育課長も取り組んでくれると思うので、見守っていきたいです。

- ・前にこども未来課でアンケートを取ったときも、こども園の先生方もかなりハードで厳しいということでした。例えば2月の定例会で提案させていただきましたが、働き方改革の一環として1人1台タブレットを使って保育の合間にやってもらうなど、そこら辺はこれを機にこども未来課もこども園の対策を少し考えてほしいです。大変ですけど、即やらないと「アンケートを取ったのに、何やっているんだ」と言われるのが落ちだと思います。

(教育長の回答) 具体的に意見の中身を知らないのと、改革のよすがはないので、中身を把握することは大事ですね。客観的に見て、ここの部分は要らないだろうとか、学校とこども園両方とも、スクラップアンドビルドでないと当然よくなっていきません。小坂学校教育課長はもともと現場にいらしたのでよくご存じかもしれませんが、現場にいたからこそ余計分からないこともあると思います。客観的に見ると全然こんなのは要らないと思うところでも、意外と現場のみんなは考え過ぎていたりということもあり、むしろ本質的に残すべきでないのは何かということが大事だと思います。それを間違えてしまうと、何だか自分たちの立場ばかりで、本当に子どものことを考えているのですかというふうなことになりかねない。客観的な視点も交えながらお願いしたいと思います。阿木こども未来課長はまだ初めてですが、データを踏まえてお願いしたいと思います。

- ・データはあります。アンケートを見ていると先生も保育士さんも、素人目から見ても本当に苦労しているというのが分かります。それこそコミュニティスクールはもうスタートしているので、先ほど言われた部活動地域移行、運動会などの大きい 행사를地域の方と一緒にやるなど、コミュニティスクールと連携して先生方の負担を少なくしていきます。そういうこともいろいろと探ればいっぱい出てくると思うので、この推進協議会で話ができるのではないのでしょうか。また、話ばかりしていてもだめなので、ネットを見ながらでも研究して、全国のあそこの小学校はこんなにすごい働き方改革でこういうことをやっているというようなことは、どんどんまねしていてもいいのではないのでしょうか。そういうことを協議会で話し合えば、効果はものすごく絶大になるのではないのでしょうか。

(教育長の回答) 提案はできますね。何でもそうですが、私たちができないと思い込

んでいることでも、世の中には意外とやっているところが結構あったりします。そこで「あそこはやっているけど、うちは違う」ではなく、「あそこがやれているなら、うちもやれるのではないか」と考えていくべきだろうとは思いますが。

- ・今まで大手企業では当たり前だったのですが、今年4月1日から中小を含め、いわゆる一般企業では全て、残業時間が60時間を超えると割増残業で賃金は1.5倍になります。実際に1.5倍というそれだけの金額を払うとなると大変なことになってしまうので、いろいろ難しいでしょうけれども、本来それぐらい払わなければいけないことなんだという認識を持っていただくべきことです。それと、今学校教育課長の言われた月45時間、年間360時間というのは一般条項の残業ですので、実際その枠内に収まるようにすることは本当に理想だと思います。

学校訪問で記録簿を見せていただくと、まだ残業時間が80時間以上の方が何人かいらっしゃいます。また80時間以上残業する方は、割とばらばらではなく、特定の方に多いような気がします。その原因などを分析しながら、業務の明確化、適正なのかなどについて、この運営の推進委員会でお話していただけたら一番いいのではないかと思います。この要綱の中でお尋ねしたいのですが、第1条の目的の下のように「広報誌等での周知の啓発」と書かれていますが、広報以外に何を考えられているのでしょうか。また、年3回会議をされるということですが、大体どの辺りで広報ないしは周知されるのでしょうか。教えていただけますか。

(回答) 一つには、学校のホームページにて教師の業務改善につながるような取組を掲載します。また、今で言いますと8月13日から15日には夏休み中の学校閉庁日がありますし、さらに、今年で3年目となりますが、4月には小・中学校ともに6時間目をカットして、その分、教師が授業以外の業務に充てられる時間をつくっております。保護者に対してそうした周知は学校を通して文書で行っております。

(教育長の意見) 5時間にして、実際残業は少なくなっていますか。

(回答) はい。4月については、単純に1時間早いので、以前と比べて大分減っています。

- ・この会議は会議の長や会長を置いて会議されるのですか。要綱には会長を置くという形にはしないということで、よろしいですね。

(回答) 学校長が委員になりますが、会議の長までは設定していません。要綱はそのようになります。

(教育長の意見) この会議は学校長が主ですか。そうすると、若い先生方の意見はどこで拾えるのでしょうか。

(回答) 学校の中で校長が拾い上げて、協議会にかけるといふふうになると思います。

(教育長の意見) 直接民主主義じゃないですけど、何でも学校の校長にというのはどうなのでしょう。校長がいてもこれだけの残業という今の状況になっているわけです。だから、校長先生だけに任せるのではなく、例えばこの協議会を開くのなら一つは若い先生や中堅の先生たちのワークショップにするとか、こういうふうにしようとか何かもっと物が言えるようなものにして、事実何でこんなに遅くなってしまうのかということも自由に話せて、その中から教育委員が言われたようなデータが取れるような、今、学校はそういう体質をつくっていくべきだと思っています。

何でも校長先生に集約していたら、それなら校長会があるじゃないということになります。そして、校長先生にも言えないという人もたくさんいます。だから、そういうところからもっと開かれた学校にしていくように、働き方改革をどうするかという意見も「校長が吸い上げるでしょう」ではなく、先生方のワークショップでじかに聞いてみるというのも、大変いいことだと私は思っています。できればそういう機会をつくっていただければ、大変うれしく思います。

- ・今は全てボトムアップが主流になってきています。多分トップダウンとボトムアップでは効果が全然違うと思うのです。

(教育長の回答) 意見を言える場が必要です。もちろん意見は言われているのでしょう。各学校で職員会議のときに校長先生に言ったとしても、やはり言えない人のほうが結構いる。そうしたところに何か矛盾みたいなものがたまっているような気もするのです。この教育委員会の中にも学校におられた方が多くいますが、多分そうした方はそんなふうには思ってもいないでしょうが、外から見ていると結構そういう感じがするのです。だから、もちろん校長先生には言わせていない、という気は全くないと思いますが、もっと若い人たちにも意見を言わせてあげてほしいと思います。

未来の学校構想検討委員会では、ワークショップなども行いました。あれがすばらしかったのは若い人たちがどういうふうにしたいかというようなことも、自由に直接意見を言ってくれたことです。なるほどと思いました。それで、そういうことをあらゆるところでやりたいですし、そうすればワーク・アンド・ライフ・バランスの問題がリアルに浮き彫りになるのではないかという気がします。ぜひそういうふうを考えていただければ、ありがたく思います。

9 議決事項

議案第 12 号 加西市立総合教育センター運営委員の委嘱について

継続審議とする

議案第 13 号 加西市青少年補導委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 14 号 加西市子どもいじめ問題対策審議会委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 15 号 加西市学校運営協議会委員の任命について

原案どおり可決

議案第 16 号 加西市立図書館協議会委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 17 号 加西市教職員の働き方改革推進会議設置要綱の制定について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

3月29日の前定例教育委員会以降について報告させていただきます。

翌3月30日には、市長からさわやか市民賞が授与されました。授与されたのは宇仁小の吉澤優花ちゃん、北条中学校の葭田 幸穂さん、そして県知事賞を受けた富合小の安永百花さんでした。このところ思うのですが、加西の子どもたちは美術や書道、スポーツですごい結果を出しています。その中でも美術が一番多く、大変すばらしい教育がされていると思います。絵画なんかも、常識にとらわれずとても大胆な絵を描いておりまして、デザインもすばらしいです。

同日には年度末ということで、教育委員会から退職校長等へ感謝状を贈呈しました。

3月31日はいよいよ年度末でしたので、この日は自分で何をやっているのか分からず、言われたとおりに動いていたという感じでした。朝8時過ぎから教育委員会での

退職者辞令交付があり、その後も首長部局で同じようなことが行われ、続いて退職者辞令交付、勤続 20 年以上の感謝状贈呈が行われ、どこでどちらの何をしているのかよく分からない状況でした。また、教育委員会では退職者セレモニーがありました。そして、加古川プラザホテルに行き、令和 4 年度退職者、教職員感謝状贈呈式に出席しました。先生方にとっては自分の人生の一つの区切りなので重要なことですが、スケジュールは寸分の間もないくらい大変でした。そして、加古川から帰ってきた後、今度は教育委員会から首長部局に異動する人の辞令交付式がありました。

その後、4 月 3 日には 8 時から首長部局の辞令交付式がありました。先にしておかないと会議に出席できませんので、いつも月曜日に行っている政策会議に間に合うよう辞令交付式が行われたわけです。そういうことでなかなか大変でした。ワーク・アンド・ライフ・バランスじゃないですが、こういうことももう少しスリム化したほうがいいのではないかとつくづく思っております。

4 月 4 日には定例校長会が行われました。新しい校長としては、賀茂小学校長、九会小学校長、富合小学校長、善防中学校長、泉中学校長の 5 人です。校長は 16 人中 3 人、教頭は 5 人が女性になりました。つまり 16 校のうち半分の学校の管理職が男女共働になりました。学校の雰囲気は少しずつ変わっていきたくらうと思ひ、私は非常に肯定的に捉えています。

4 月 5 日には北条高校の臼井新校長先生が、教育長室にお見えになりました。臼井先生は姫路東高校で大変前向きな学校経営をなさってきた方です。兵庫スーパーハイスクールとして探究活動に取り組み、独自のカリキュラムによる授業や大学研究機関と連携した地域の特色を生かした課題研究など、様々な取組を積極的に行われてきました。そして、未来への道を開く力の育成を熱烈に目指してこられた熱い方です。そういう意味では大変ざっくばらんなオープンマインドな校長先生であり、私はお目にかかったときから「ああ、これは中高連携とか STEAM の連携などでご一緒する可能性がすごく高くなったな」と感じており、うれしいことだと思っております。北条高校は今年百周年を迎えます。準備はもう始められておりますが、先生ならきっといろいろところで色をお出しになるだらうと思っております。

その日には播磨東教育事務所より杉谷新所長もご挨拶にお見えになりました。このところ播磨東教育事務所は所長が 1 年置きに代わってしまひ、「何ですか」と尋ねると、「いや、人がいないのでしょうか」と言っておられました。しかし、それだけではなく、次々に経験をさせて校長に送り出しているのだと思ひます。

4 月 10 日には北条高校の入学式に出席しました。今まで 3 年間来賓なしで行ってましたので、行きたくてもいけませんでした。実は、私は生まれて初めて北条高校に入りました。皆さんこの学校で勉強されたんだなと思ひながら会場に入りました。とてもきちんとした学校で校長先生の挨拶が大変よかったです。

翌 4 月 11 日には播磨農業高校の入学式が行われ、これも大変よかったです。播磨農

業高校の中に入ったのも私にとっては初めてでした。実は 21 世紀というのはアグリカルチャー、農業の時代だと私は思っています。そういう意味で播農はその人材を育てる大切な学校です。北条高校の校長先生とも話したのですが、今やただ単に生徒の記憶力を鼓舞して高校入試や大学入試をするという時代は、本当はもう過ぎています。文科省がもっとそれを打ち出さなければいけないと思っています。そういう意味で播農も人材を育てるための大変大切な学校だと思っています。

4 月 12 日には公民館やオークタウン加西の館長たちと面談をしました。昨年度は公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会を大変な努力をして開いていただき、たくさんのいい意見を出していただきました。しかし、ただ報告書をまとめるために会議をしたわけではなく、それを現実はどう実現できるかということで会議を行いました。それで、生涯学習課は少し大変ですが、やってくれるだろうと信じているという前提で面談をさせていただきました。今年度新しく 2 名が館長としてお入りになり、そのうち 1 名は民間から入られました。少し空気も変わりましたし、館長さんは皆さん前向きです。しかし、何といたっても予算と人材を得なければできないと言われましたので、生涯学習のための予算は来年度からもう少し思い切って堂々と獲得したらいいのではないかと私は思っています。

同日には、カサイコンクリートさんから寄附を頂く会が行われました。カサイコンクリートさんには毎年寄附を頂いており、本年はこども園にとのことでしたので、こども未来課が現場の先生方と話し合っていて、もうすぐ何にするかが決まるという状況です。大変ありがたいことです。

4 月 13 日には公私立園長会が行われました。思い違いをしていたら申し訳ありませんが、公立と私立の園長先生が一堂に会した園長会というのはとても久しぶりだったような気がします。私はそもそも公立と私立で分けて会議をしているのは、あまりよくないとずっと思っていました。それぞれ子育ての方針やシステムが違っていても、先ほど教育委員も言われていたように、どちらも加西市の幼い子どもたちを毎日お世話いただいているわけですから、問題を共有できる場所はたくさんあると思っています。一緒に市の方針やそれぞれの園の課題というものを共有しながら、解決に向けて進んでいきたいと思っており、会は大変よいものでした。私立の先生方は結構縦横無尽に意見をおっしゃられますので、それを公立の先生方が聞くというのも大変いいことだと思いました。

4 月 14 日には定例の教頭会が行われました。私は教頭会に出たいなといつも思っていたのですが、校長会だけで教頭会にはお誘いが来ませんでした。しかし、年初でしたので、今回は教頭会にも出させていただきます。決して校長先生方が駄目と言っているわけではないのですが、やはり教頭先生方の年代は校長先生たちより大体四、五歳は若いし、もっと若い先生方もおられます。今女性教頭も 5 名に増えていますので、雰囲気は結構違います。何となく活気や情熱、意欲を感じられるいい教頭会でし

た。もちろん学校の方針を決められるのは校長先生ですが、現場を支えてハンドリングをしているのは教頭先生です。もともとは大変な作業も教頭先生が担っていたところがあり、女性になりたがらない役職でしたが、女性の教頭先生も随分多くなって頼もしいなと思いつつながら、いい教頭会に出させていただき、うれしかったです。

実は、4月17、18日に教育部長、新中学校建設担当参事、首長部局の担当課長、係長などと一緒に東京へ視察に参りました。新中学校建設の視察です。そろそろきちんと視察をしないと、ある日突然やろうと思ってもできませんので、4月の忙しい日程でしたが行って参りました。一番うれしかったのは、首長部局の担当課長などが「教育長のおっしゃっていることがよく分かりました。学校建設というのは、建物の建設でありハード事業なんだと自分たちは思っていました。しかしながら、視察に行つていろいろな方とお話したり物を見たりして、むしろソフト事業なのだと、加西市が目指す教育を見定めるところから建設に入つていかなければ、そこでの学びを最大限に生かす建築物は設計、建築できないのだと。そういうことが大事なのだということが大変よく分かりました。」と言つてくれたことです。全員が大変わくわくした気持ちで、今回の視察はよかつたという話をしました。私にとつても大変うれしく有意義な視察となりました。

少し長くなりますが、建物というのは建物自体ではなくてソフト、つまりその市の教育の思想とかありようというものを表しているものだというのが、前からの私の持論であります。実際に視察に行つて見た建物は大変斬新でしたが、かといつて斬新だから使いにくいというわけではなく、発想自体が豊かだと思つました。また今後いろいろな視察に行くこともあろうかと思つますので、その節はよろしくお願ひいたします。

4月19日には新任校長との面談が行われ、新任女性校長である藤本由佳さんを皮切りに5名の新任校長とじっくり面談をいたしました。学校教育課長が「教育長と校長先生とで密談してもらつてもよろしいです」などと言つてくれましたので、自由に話をさせていただきました。校長先生たちは新任なので緊張しているだろうと思つていましたが、皆さん1人1人しっかりと自分の目指す教育の姿について語つてくれました。「教育長、実はこんなことにちょっと困つていますが、どう思われます」というような話もざつぱらんにしてくれまして、大変いい懇談になりました。新任といえども自分の目指す学校の姿を追求していつてくださるだろうと思つていますので、皆さんもどうかバックアップしてあげてください。

私は「最後は私が責任を取るのだから、思う存分やってください」と言つてしまいました(笑)ので、責任を取るしかないと思つています。「人は失敗することで学ぶのだから、ちょっとぐらい失敗してもいいよ」と言いましたが、それぐらいお互いに分かり合つた仲で教育していくことが大事なのだろうと思つます。同時に、校長先生も世代が変わつてきているなと実感しました。自分たちの未来や子どもたちの未来はよりよ

くなる、よりよくするのだというフレッシュな決意を感じて、よい面談だったと思いました。

同日には連合婦人会総会がコミセンの視聴覚室で行われ、市長が講演をなさった後、私は総会に出席しました。連合婦人会の役員さんの中にはまだご存じのない方も多いので、加西市の教育がどうなっているか、STEAM Labo. が各学校に入りどんな新しい教育に挑戦しているのか、校内フリースクールの取組など現在の教育委員会の状況と実績についてお話をさせていただきました。

4月20日夜7時半頃から、連合PTAの新旧会長会が福祉会館ラヴィカさいで行われました。区長会でも新旧の代表区長が出る会というのではないので、この新旧会長が両方同席するPTAというのは、前の人からの引継ぎもでき珍しい良いシステムだと思いました。また、会場をよく見ると新しい会長の中に女性が2名いらして、何かすごくうれしく思いました。普段パパは会社に行っていて実際に子育てしているのはママが多いわけですから、お母さん方ももっと前に出られるべきだと思います。小・中学校のお子さんをお持ちのパパ、ママですので、本当に若いです。私の子どもぐらいの年代で、「私も年取ったな」と思いましたが、会議の雰囲気は仲間同士の会合のようで、オープンマインドな感じがしてとてもよかったです。

そこで今の教育について私がお話しましたので、会場を出ようとする「教育長」と呼び止められ、「校内フリースクールについて教えてください」と質問を受けました。その方は「学校に行けない子のために校内にそんな施設を造っても機能しないのではないかと思うのですが、何でそういうふうにしたのか背景を教えてください」と言われました。それで、私は「いやそのとおりです。実は私もそう言った一人ですよ。しかしながら、学校に行けない子にもいろいろな子がいるのです」と言い、教育センターで行った不登校の子どもたちのアンケート結果についても話しまして、実はいつも行きたいと気になっているのに行けない子、みんなと一緒に門からは入れない、同じ時間に行けない子もいる。でも学校には行きたいと思っている子どもが半数以上もいることが分かり、まずできることからということで校内フリースクールを決めたと話しました。

そういうお話を結構長くいろいろとしていましたら、その周りに二人、三人とお父さんたちがざっと寄ってきてお話をさせていただきました。すると、皆さん「ああ、分かりました」と言われ、私は「これが終着ではありません。これは入り口でスタートなのです。本当は違うサードプレイスをもっと積極的につくらないといけないのです。もう今は待ったなしの時期だと思っています」とお話をさせていただきました。そのようにして本当に皆さんが加西市の教育や子どもたちのことを真剣に考えていることが伝わってきて、充実した時間でした。

4月21日には代表区長会が行われました。各代表区長さんが活発に発言されて何と3時間近い会議となりました。去年は誰も何も言わなくてしーんとしていたので、正

直に言って去年と打って変わったなと感じました。区長さんによっても少し違うでしょうし、代表区長の司会のしかたによっても違うのでしょうか、活発に発言がされ、議論が巻き上がるというのは大変重要なことで、これは民主主義の基本だと思います。区長会というのはもっと静かな会だと思っていましたが、それができているというのは大変良かったです。

本日4月24日午前には臨時議会が開かれました。教育委員会からは1学期に限ってですが、教育振興費交付の補正予算を提出し、認めていただきました。後ほど部長からの説明があると思います。

教育部長

令和5年度4月臨時議会について報告いたします。先ほど教育長も少し触れたのですが、本日午前に4月臨時議会が開催されました。今回の議会の議案は、その他議案もありましたが、主に一般会計補正予算のための議会というふうにご認識ください。臨時議会を開催した背景としては、国が地方創生臨時交付金として各地方自治体に交付金を措置したことに伴います。この交付金はコロナが拡大してきたころから創設されたもので、コロナ対策費や物価高騰に対する措置として各自治体に配付されるようになっていました。今回、加西市にも交付がありましたので、それに伴う補正予算ということで議案を上程しました。最終的に本会議にて全会一致で承認を得られましたので、この事業を進めていくこととなります。

質疑では質問者5名中4名から、教育振興費に対する質問がされました。補正予算議案に対する審議ですので、基本的には予算審議となります。この予算の概要としては教材費の保護者負担に相当する額に交付するという事業で、小学校では月額1,000円、中学校では月額2,300円が実績として把握されており、その1学期分、つまり4月から7月の4か月分として積算しています都合、小学生は4,000円、中学生は9,200円を交付する事業です。

今回、国からはできるだけ早期に交付対象者の手元へ届くようにと示されています。現金交付では、口座の照会などのやりとり、それに伴う出金の伝票処理で二、三か月が普通にかかってしまうことから、今回は地域通貨のねっぴ〜Payでの交付とします。また、それぞれ小・中学校4か月分の4,000円と9,200円を一括で交付することにしています。本日議決が得られましたので、5月連休明けぐらいを想定していますが、直ちに全対象者に郵送で送る予定です。補足ですが、ねっぴ〜Payでの交付では市からQRコードをお送りし、受け取った各家庭がスマホのQRコードリーダーを使ってその日のうちにダウンロードができます。そのため、任意にはなりますが、できるだけ早期に手元に届けることが可能だと考えています。本日そういった事業の補正予算が承認されましたので、これから事業実施をしていくこととなります。

学校教育課長

まず、今年度の学校組織について報告いたします。各校の校長、教頭等の学校組織については資料のとおりです。教育長の話にもありましたが、今年度5名の新校長、同じく5名の新教頭を迎えての組織になっています。詳細については割愛しますので、学校訪問の際に詳しくお聞きになっていただければと思います。

二つ目に、小・中・特別支援学校の児童生徒数について報告いたします。4月11日現在の資料ですが、それ以降変更はありません。今年度の小学校11校の総児童数は1,932名で、昨年の1,930名より+2名となっています。中学校の総生徒数は900名で、昨年の927名より-27名となりました。特別支援学校の児童生徒数は50名で、昨年度の44に比べ+6名となっています。今年度の新入生については、小学校1年生が319名で、昨年度の318名より+1名となります。中学1年生は307名で、昨年度の302より+5名となっています。数字ばかりですが、ご質問等がありましたら、別のときになりますが、よろしく願いいたします。

三つ目に、昨年度学校づくり×STEAM推進事業報告を簡単にさせていただきます。この事業につきましては令和3年度までは学校づくり応援事業、令和4年度から学校づくり×STEAM推進事業と呼んでおり、基本的にはふるさと納税を充当した事業として、学校規模にもよりますが、1校当たり35万から48万ぐらいを配当し、各校の特色ある取組を支援するもので、事業名にもあるとおり特にSTEAM教育の推進に重点を置いています。加西市の目指す次世代型人材育成の視点であるチャレンジ、コラボレート、クリエイトの三つのCを軸にし、各校で地域の特徴や児童生徒の実態に合わせた特色ある取組を進めています。写真等をたくさん載せて学校ごとの取組を説明させていただいています。大変しっかりとした報告書になっておりますので、ぜひご覧いただければと思います。繰り返しになりますが、時間の関係で詳細の説明は割愛させていただきますけれども、詳しくは学校訪問の際に学校のほうにお聞きいただければと思います。

こども未来課長

まず、初めに令和5年度こども園・広場の組織表についてご報告します。本年度、公立は4園で保育を実施します。昨年度まで加西こども園園長であった井芹園長が、新たに北条ならの実こども園の園長になられました。また、加西こども園の園長には、こども未来課の課長補佐であった小西孝子さんが、管理職7級の園長として着任されています。副園長は千石副園長が新たに就かれています。続いて、私立園についてはこの4月から11園でスタートしています。万和学舎北条保育園と、万和学舎中野保育園が、4月1日から小規模保育園つまり0から2歳児を預かる園としてともに定員12名で開園をしました。北条保育園は福井敏幸園長、中野保育園は高田万樹園長です。さらに、療育と昨年度と同じ「つどいの広場」を実施させていただきます。

続いて、令和5年度学童組織表についてご報告します。本年度、学童保育園は昨年度と同じく11園で開園させていただきます。これまでもご説明させていただいていると思いますが、泉学童保育園については現在建設中であり、夏休みからの開園を見込んでおります。

教育委員からの意見と回答

- ・最後に言われた万和学舎北条保育園の園長先生とは昔、中学校でも、教育事務所でも一緒でした。美術の先生なのですが、とても積極的な方です。いろいろなことで市内の公立園やほかのこども園とも連携してやりたいという意欲を持たれていました。当然上にあるアスもとも同じ会社なので、その辺りはとても意欲的に思っている方でした。また教育長にもお話に来られると思います。

(教育長の回答) それはありがたいです。新しくできた園で先生方もどういふ方か知らなかったから、私も少し不安でしたから、大変ありがたい情報です。わざわざ加西に通ってくださるのですね。では、またお目にかかっているいろいろとお話もしたいと思います。

生涯学習課長

生涯学習課からは3点を報告させていただきます。

最初に、令和5年度公民館・オークタウン加西職員配置について報告いたします。教育長の報告にもありましたが、3月末で2名の公民館長が退職することに伴い、今年度2名の館長を新採用いたしました。そして、資料のような職員配置をしています。昨年度と異動がないのは善防公民館とオークタウン加西だけです。残りの中央公民館、南部公民館、北部公民館では、それぞれ館長や事務職員の新規採用等があり職員の異動がありました。中央は小林館長、善防は大藤館長、南部は新採用の東出館長、北部は新採用の後藤館長、オークタウン加西は山田館長の体制で、公民館は事務職員2名、オークタウン加西は事務職員1名体制で運営をしておりますので、よろしく願いいたします。

次に、加西市公民館・オークタウン加西の発展のための基本計画について報告いたします。この基本計画は市内4公民館及びオークタウン加西をさらに発展させることを目的とし、具体的に短期と中長期的戦略をもって目指していくということで作成いたしました。

最初に、「現状と課題」を説明しています。現状については、①の職員配置は全館、全員が会計年度任用職員であり、夜間休日はシルバー人材センターに委託をしている状況です。②施設状況、③修繕状況のところでは、いずれの施設も建設から40年以上が経過していて各施設とも老朽化の問題があり、バリアフリーにも対応できていない

ところがあります。④の利用状況ですが、利用者数は過去 10 年間の推移としては平成 25 年をピークとし令和元年度までは 10 万人前後を維持していましたが、令和 2 年度以降新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者は減少しています。昨年度から通常運用を少し回復してきましたが、令和元年度までの 10 万人前後の利用者維持はできていない状況です。

これらの現状から、課題については、男性や若年層の参加者が少ないため、参加をより多くの人に広げること、様々な社会の人に学びの場を提供するために日曜祝日の開館が必要ですが、職員数や勤務体制の検討が必要であることが挙がりました。また、魅力ある講座の提供のための予算の拡充、学校や地域、企業等との連携、施設の老朽化に対する対応も必要になることが挙げられています。これらのことから、今回の検討委員会の意見として以下の四つが出されました。①市民・住民に公民館の「本当の姿」が知られていないのではないか、②積極的に活動している人が「伝えられる」仕組みがまだまだ少ない、③施設の独自性や活動の個性が見えにくい、④建物・建設の老朽化への対策が不十分であるということです。

次に、これらを踏まえて「加西市社会教育施設の近未来」ということで、公民館とオークタウン加西の未来像を書いています。まず、公民館の未来像は A から G とし、「A だれでも自由に『学び合い、楽しめる』公民館を」、「B いつでもだれでも気軽に『立ち寄れる』公民館を」、「C 多様な人・活動と『つながりを作る』公民館を」、「D 住民の『ふだんの暮らしを幸せにする』公民館を」、「E 住民が『互いの持ち前を学び合う』公民館を」、「F 住民が『社会を変える動きにワクワクできる』公民館を」、「G まちに学びが波及する起点としての公民館を」としました。次に、オークタウン加西の未来像は H から J の 3 点で、「H 青少年の探求的な活動を支援する場に」、「I 加西から地球を感じ考える研修の場に」、「J 加西とのご縁が紡がれる場に」としています。

3 番目に、これらの近未来像に向けて今後どう取り組んでいくかという計画を策定しており、短期的戦略 8 項目と中長期的戦略 10 項目を分けて挙げています。主な短期的戦略としては、職員体制の充実で社会教育主事の配置、目的別スペース、フリースペースの開設、公民館 STEAM Labo. の運営担当として公民館職員の配置・育成など 8 項目が挙げられています。中長期戦略では、公民館へのアクセスということで、車の運転ができる方がいいのですが、できない方向けにコミュニティバスの運行ができないかということ、施設のバリアフリー化に向けたワーキンググループをつくることなど 10 項目が挙げられました。こうした全部で 18 項目を戦略として位置づけ、これから取り組んでいくことにしております。

最後に、「おわりに」の部分では、この未来像を具体化するために市民や住民、関係機関と連携して短期、中長期の施策の実行及び検証を行い、そこから出た新たな課題に柔軟な態度で取り組んでいくことを述べています。そして、公民館を「居場所をプラス 全世代のワクワクをプラス つながりを育む 学びのプラットフォームに」

なるような場所にしていこうということで、この基本計画をまとめています。

続いて、「公民館への誘い」と小学生向け土曜日プログラムについてご報告します。「公民館への誘い」は4月広報とともに全戸配布しました。講座の申込みも4月11日から受付を開始しており、既に定員を超えたものもあります。申込状況につきましてはホームページにて随時更新をさせていただいています。また、昨年度ご紹介したように、今年度も生涯学習支援ネットかさいの方々に相談コーナーを設けていただき、生涯学習に関する相談支援事業を実施していくことにしています。

教育委員からの意見

- ・本当に多岐にわたっていろいろな取組をしていただいております。

まず、公民館とオークタウンの発展の基本計画については、大変よくまとまっていて、その中でも現状プラス短期・中長期戦略というところでいろいろな検討をしていただいて、活性化や人生百年時代に向けてこういう課題に取り組んでいくという姿勢がきちんとまとめられています。それにプラスして、そのダイジェスト版といったものも、まとめていただけたらいいかなと思います。

そして、教育長の新中学校建設の話にも出ていましたが、やはり公民館についても建物よりソフトというか中身で、つまりその中でどういう講座を開いていくのかということです。また、その講座も何年か経てば、できるだけ自主グループとか登録グループに変更して、市外に出て行ってくださいという姿勢で進められていますが、その点については引き続きそのようにお願いしたいなと思います。それだけではなく、去年南部公民館のハーモニカグループが小野のエクラで発表会をするから来てほしいと言われて行ったところ、北部公民館のギターグループも来ていました。私は小野グループで話かなと思っていたら、加西のグループが二つも来ており、そういうふうにも市外に出て行って発表会や活動をするグループもあり、とてもよかったです。そういうことも引き続きやっていただきたいと思います。

もう一つには、南部公民館の新館長にご挨拶に行かせていただきましたところ、とても前向きでやりたいことがあると言われていました。逆に、そうした館長の意欲をこちらのほうでもサポートしていただければと思います。

(教育長の意見) 私はそういった活動をしている知人に「公民館への誘い」を見せましたら、「加西ってすごいね、今こんなにいっぱいいろいろやっているところなんてないですよ」と言われ、大変鼻が高かったです。少し文字は多いのですが、内容があっという間だなと思いました。

図書館長

「令和5年度こどもの読書週間」イベントについて報告いたします。2001年12月12日公布の子どもの読書活動推進法により、こども読書週間の始まりの日である4月23日は子ども読書の日として制定されています。公益社団法人読書推進運動協議会主催のこどもの読書週間は、4月23日からこどもの日を挟んだ5月12日までの20日間です。今年の標語は「ひらいてとじた 笑顔がふえた」です。

加西市立図書館においてもこどもの読書週間に関連イベントを実施いたします。「クイズにチャレンジ」と「本の福袋」は既に4月23日から始まっています。それぞれ先着60名、40名としており、開催期間に用意したものがなくなり次第、終了いたします。また、「わくわくランド」は4月23日から5月7日まで開催しており、おむすびを高いところから転がして遊ぶ「おむすびころりん」や昔話をテーマにしたパズルを完成させるコーナーもあります。キッズクラフトについては、1回目は4月23日に実施をし、2回目として「ぐらぐらバランスゲームを作ろう」を4月30日に開催する予定です。全て参加無料となっていますので、よろしければ皆さんも遊びに来ていただければと思っております。

1.1 協議事項

なし

1.2 教育委員の提案

なし

1.3 今後の予定について

- ・令和5年第5回定例教育委員会 5月29日（月）14:00～1F多目的ホール
 - ・令和5年第6回定例教育委員会 6月20日（火）14:00～5F大会議室
- なお、6月20日午前には北条ならの実・泉よつばこども園の教育委員計画訪問
また、定例教育委員会終了後、第1回総合教育会議を予定しております。

1.4 その他

- ・先日井上課長と話をしていましたら、加西こども園にはフェンスの低いところがあって、もし外から侵入者に入られたら怖いという話が去年からあったそうです。今日、小西園長と話をしたところ、5月に工事をしてもらえると喜んでおられました。ありがとうございます。
- ・給食ファームののぼりが新しくなっていたようですが、あれは改めて配られたのですか。大分ぼろぼろになっていたものが、この間見たら新しくなっていたのでよかったなと思います。

(回答) 4月に入って配らせていただきました。

- ・教育長から東京出張の話がありましたが、学校というのは当然建物を建てるわけですが、やはり二十年、三十年後の未来への投資という部分もあると思います。九重町の中学校を見させていただきましたら、加西とは少し状況は違いますが、特に災害の多いところということで、もしものときに地域の避難所となることも含めた設計でした。それから、とにかく玄関に入ると図書館があったり、パソコンが使えるようなところがあったり、一角には地域の伝統的な展示物や名産品が飾られていて、とにかく子どもたちが地域について考えるスペースが学校の正面玄関にありました。

そういうことも含めて子どもたちが使いやすい学校の設計、また今回は通学バスの問題も出ていますのでその辺りも含めていただけたらと思います。教育長も言われましたけれど、本当にハードではなくソフト事業ということも合わせて、予算はかなりかかるとは思いますが、その辺りの検討もぜひお願いしたいと思います。

もう1点は教育長も触れられた校内フリースクールについてです。これは去年から出ている話で、取組は今どれぐらいまで進んでいるのか教えていただけますか。

(総合教育センター所長の回答) 校内フリースクールは中学校が中心ですので、これまでに中学校の不登校対策委員会を5回行いました。子どもたちへのアンケートも実施し、求めている形、備品等を調査しました。また、学校教職員にも運営方針、ルールづくり、設備関係といろいろな項目を挙げて、アンケートを取り集約しています。さらに、支援員も2名決まっています。前回の不登校対策委員会ではその場と一緒に参加して顔合わせもしています。このようにほぼスタートできる状況に近づいており、最終どこに設置するのか、どの学校のどの教室を使うのかというところの詰めは今、入っている段階です。

総合教育センターとしてはスムーズに行くと考えていたのですが、学校現場での使用状況、教室の使用状況や現場教職員の意見等で一致しない部分が少しありまして、今そこの調整をしている状況です。まだ最終決定には至っていないのですが、状況から考えると1校目は北条中学校に設置する方向で進んでいます。北条中学校と考えたとき、実は市内4中学校の中で一番空き教室がない学校なので、その調整に少し時間がかかっています。今後は我々も学校のほうに出向いて、教職員へ話をする機会をお願いしているところです。

- ・やはり生徒数も不登校の子どもたちの数も、北条中が一番多いというのはもう分かっていることです。その子どもたちは「やっぱり学校に行きたい」という気持ちが当然あると思います。だから、逆に空き教室があるからと、泉中とか他校につくってもあまり意味がないというのは私も思います。ですから、校内につくるとというのが最初の名目ですので、校外につくるという方法もありますが、何とか先生方も子

どもたちのためにという意見をできるだけくんでいただいて、北条中の校内にと思います。建て替えのときから教室も狭いというのは一番思っていたところですけど、そのようにお願いしたいと思います。

それとプラスして、一方で学校や校内にはなかなか行けないという子どもたちのために未来型児童館の話もあり、相談事業といったことも進めていきたいと言われていましたから、校内フリースクール一択だけではなく、いろいろな形で子どもたち、その保護者の方も相談できるような体制を何とか考えていってほしいと思います。これは希望ですがお願いします。

- ・以前、2校の校内フリースクールの設置を考えていると言われていました。今のお話では空きがあればできれば北条中に1校目ということでしたが、2校目については今どのようになっているのでしょうか。

(総合教育センター所長の回答) 当初の計画どおり2校へ設置する準備を進めています。ただ、同時につくるのではなく、現状は北条中に1校目を設置する予定で進めています。まず1校目をつくり、校内フリースクール設置の状況を検証したいと考えています。あまり時間差でつけれないのは事実ですが、効果があってもう1校の校内フリースクールが必要ということであれば、即その方向で考えられます。また、委員さんが言われたように場所を少し検討しなければいけない場合など、その辺りは柔軟性を持つように、今は含みを持たせて計画しているような状況です。

- ・そうすると、今2名の支援員の方が決まっているということですが、例えば最終的に2校のフリースクールができたときには、一人ずつ就かれるのでしょうか。それとも、2名とも今考えている1校目のところに就かれるのでしょうか。

(総合教育センター所長の回答) 4月からの契約でお願いしているので、時間差で進めている分、1校目が設置される時点ではお二人で最初の立ち上げを進めていくほうが、メリットになると考えています。2校目ができるときには、もちろん1校目でのノウハウがあり比較的進めやすいと思いますので、1人1人の配置予定にしています。

- ・もちろん今言われたように、教室の空きや集約性の一番いいところを探すというのは大事ですし、まずは一つのところでやってみるというのも、一つのやり方だと思います。でも、一つ目をきちんと整備したら、すぐに次のところもするようになっていただけたら、例えば中には「北条中は行けないけれど、あそこの学校だったら行けるわ」とか、そういう生徒さんも出てくるかもしれないので、幅広くご検討いただけたらと思います。

- ・いろいろとお話は聞かせていただきましたが、大体いつ頃をめどにスタートされるのですか。

(総合教育センター所長の回答) 予算や整備の関係があるので、当初は4月には工事に着手し1学期中には開校する予定で考えていましたが、少しずれています。というのは、北条中での教室の決定についていろいろな意見が出たことと、空き教室がなかなかなくて意見がまとまらなかったということがあります。その部分で少し遅れているような状況ですが、できる限り当初の予定に近づけて進めていきたいと考えています。

- ・話を聞いていて思ったのですが、予算もありますし、夏休みがあればその間にいろいろと話をしたり、検討材料も整うのではないかと思います。それで、最低でも2学期にスタートできたらいいのではないのでしょうか。

- ・ほかの生徒がいない夏休みにそこが使えるというのは、一番計画づくりとしてはいいかもしれません。調整が大変だとは思いますが。

(総合教育センター所長の回答) 皆さんが言われていることは全て分かっていますし、全部が協議の中で出てきた意見であり、いろいろなことを想定して考えている状況です。不登校対策委員の担当者からも「早くつくってほしい」という声が出ており、校内フリースクールを望んでいます。ただ、場所についてはいろいろな議論があり、非常になかなか難しい状況です。実際、教科の授業がそこで行われていて、いつも使っている場所をもらうわけなので、場合によっては移動するなどいろいろな変更をしていかないといけないため、少し遅れています。現場の教職員も方向性としては応援してくれていて、「できれば、今すぐにでも行けるのに」という意見を聞くと、確かに我々としても心苦しい状況であります。私も本当はこの4月にスタートさせたいという気持ちが十分にあったのですが、始めるとなかなか思うとおりにいかないと分かりました。でも、頑張っていきます。

(教育長の回答) 学校の対面とかではなく、子どもを第一に考えて頑張ってもらいたいです。それをやるには少し無理してでもここを空けようというような情熱がないと、物事は始まらないと思います。総合教育センター所長が大変だというのは重々分かっていますが、みんなで応援しますので頑張ってください。

- ・話は戻りますけど、学校の別室に当たって失敗例があります。昔よその市町が著名な建築家さんに頼んで建てたら、何かデザイナーの芸術作品みたいなイメージで造られて使い勝手の悪いものができてしまったそうです。それだけは避けて子どもたち中心にやってください。

(教育長の回答) 子どもたちにとって居心地のいいサードプレイスをどう造るかとい

うのは、大きな課題です。今回のフリースクールがサードプレイスになるかというのは、校内なのでどうかと思いますけれども、逆にそのメリットもあるわけなので、とにかくあまりずるずると遅れてしまわないように頑張ってください。

- 新設校にもそういうスペースを確保していただけたらと思います。

(教育長の回答) それはもちろんです。今の議題については、新中学校や未来型児童館にもサードプレイスができたらと思っています。それは全ての担当者がそれぞれに思っていることだと思います。教育委員会として頑張りますのでよろしく願いいたします。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和5年4月24日

出席者

(出席者署名)